

第2学年 国語

1. 教科の目標

- ・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に着けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- ・論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- ・言葉が持つ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2. 評価の観点と内容

学習の到達目標	知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりできるようにする。
	思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
評価方法	〈授業〉 授業への取り組み、振り返りシート 〈提出物〉 ワーク、漢字学習、作文・レポート・鑑賞文等の作品 〈テスト〉 定期テスト、単元テスト、小テスト（漢字・文法）、パフォーマンステスト（朗読、スピーチ）	

3. 学習の手引き

使用教材		教科書：国語・書写（光村図書） 副教材：国語スイッチ、漢字の学習、すらすら基本文法、書き方レンジャー
学習方法	学校	①授業の準備をしっかりとしましょう。（忘れ物がないように。） ②人の発表をよく聞き、積極的に自分の意見を発表しましょう。 ③ノートは「授業内容」だけでなく、「予習」でも活用してください。ノートは必ず、縦書きにしましょう。授業中の設問では、黒板の答えを写すだけでなく自分の考えもノートに書いておきましょう。 ④漢字テストは1週間に1回行います。出題範囲の漢字をしっかりと確認しておきましょう。 ⑤提出物は期限を守って提出しましょう。
	家庭	①語句・意味調べ、漢字の読み書き、本読みなどを行い、しっかり予習しよう。 ②教科書・ノートの見直し、ワークを繰り返し行うなど授業の復習をし、自分で考えることができるようにしておきましょう。 ③できなかったところは、解説を読んで、「なぜ違うのか」を理解しよう。授業で取り組んだ内容を中心に学習し、定期テストに備えよう。

4. 年間計画

学期	月	単元名	目標・評価の観点
1 学	4 月	・見えないだけ ・アイスプラネット	・好きな言葉や表現を書き写し、その理由をまとめることができる。 ・詩の特徴を生かして朗読する。 ・登場人物の心情や考え方が表れた語句に注意して、作品を読み取ることができる。 ・「ぐうちゃん」の言動から特徴を捉え、他の登場人物との関係をまとめることができる。
	5 月	・枕草子 ・多様な方法で情報を集めよう	・現代語訳や語注を手掛かりに「枕草子」を読み、作者のものの見方や考え方を捉えることができる。 ・作者の考えと自分の考えとを比較し、感じたことをまとめることができる。 ・集めた情報を表や図にまとめ、整理することができる。 ・調べてみたい職業を決め、情報を収集する。また、収集した情報を分類・整理し、自分の目的に合うものを選ぶことができる。
		・漢字1（熟語の構成）	・熟語の構成を意識しながら、漢字を読んだり書いたりできる。

1学期	6月	<ul style="list-style-type: none"> クマゼミ増加の原因を探る 〔文法1〕自立語 	<ul style="list-style-type: none"> 文章が六つの部分でできていることを理解し、それらの関係を整理できる。 筆者の主張を捉え、それと仮説1~3との関係を理解することができる。 文章中の図表やグラフが何のために示されているのかを、対応する文章を基に捉えることができる。 自立語にどんな品詞があるかを知り、それぞれが文の中で果たす役割について理解することができる。
	7月	<ul style="list-style-type: none"> 短歌に親しむ 短歌を味わう 言葉の力 言葉1（類義語・対義語・多義語） 毛筆、硬筆 	<ul style="list-style-type: none"> 情景などを表す語句に着目して作品を読み取ることができる。また、情景や心情が生き生きと伝わる言葉を選んで短歌を創作することができる。 好きな一首を選び、自分の知識や経験と結び付けて感想を書くことができる。 言葉に対する筆者の考え方を捉え、本や文章には、筆者の考え方が書かれていることや、それに触れることで自分の考えを広げたり深めたりできることを理解することができる。 類義語・対義語・多義語の概念について、具体的な例を当てはめて理解することができる。 行書の書き方を理解し、書くことができる。
2学期	9月	<ul style="list-style-type: none"> 盆土産 字のない葉書 言葉2（敬語） 漢字2（同じ訓・同じ音をもつ漢字） 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の言動や情景を表す語句に着目し、それらが作品に与える印象を捉えることができる。 登場人物の言動から人柄や心情を読み取り、それらが話の展開や作品の印象にどう関わっているかを捉えることができる。 表現に着目して人柄や心情を読み取り、それを生かして他の随筆を読むことができる。 前半部分と後半部分の人柄や心情の描かれ方を比較し、表現の効果について捉えることができる。 敬語を使う生活場面を想定し、敬語の働きについて理解することができる。 同じ訓をもつ漢字や同じ読みで意味の異なる言葉（同音異義語）の使い分けについて理解することができる。
	10月	<ul style="list-style-type: none"> モアイは語るー地球の未来 根拠の適切さを考えて書こう 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の意見（主張）がどのような根拠によって支えられているかを理解し、その根拠が適切かが判断できる。 文章全体の構成を捉え、意見と根拠の結びつきや論の進め方を理解することができる。 自分の知識や体験と重ね、筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめることができる。 自分の意見を支えるための適切な根拠を選ぶことができる。 根拠となる事実を具体的に示したり、想定される反論に対する意見を示したりすることができる。
	11月	<ul style="list-style-type: none"> 扇の的ー「平家物語」から 仁和寺にある法師ー「徒然草」から 	<ul style="list-style-type: none"> 漢語を交えた独特の調子とリズムを捉えて朗読することができる。 冒頭部分の現代語訳を読んで、「無常観」を感じ取ることができる。 古典の文章独特の調子やリズムを意識して朗読することができる。 与一や義経の言動、扇の的を射落とした後の人々の反応に着目し、古人のものの見方や考え方を捉えることができる。 「扇の的」での与一の言動や「弓流し」の場面での義経の言動の意味について考え、作品を読み取ることができる。 現代語訳や注などを手掛かりにして、法師の言動やそれに対する作者のものの見方、考え方を理解することができる。 法師と同じような経験がないかを踏まえて、考えたことを表現することができる。 文章の構成を工夫して、古典の登場人物について論じる文章を書くことができる。
	12月	<ul style="list-style-type: none"> 漢詩の風景 君は「最後の晩餐」を知っているか 「最後の晩餐」の新しさ 〔文法2〕用言の活用 毛筆、硬筆 	<ul style="list-style-type: none"> 漢文特有の言葉遣いや調子を意識して朗読することができる。 好きな漢詩を選び、気に入った表現や句を引用しながら、構成や表現の効果を伝えることができる。 筆者が、どのような例示（具体）を基に、「最後の晩餐」を「かっこいい。」（抽象）と述べているのかを理解することができる。 二つの文章を比較し、それぞれの特徴や共通点・相違点を表に整理することができる。 二つの文章に書かれていることを比較したり、関係づけたりしながら、それぞれの文章が書かれた目的や意図を捉えることができる。 用言の活用形と活用の種類について、語例を基に理解することができる。 行書とそれに調和する仮名で書くことができる。
3学期	1月	<ul style="list-style-type: none"> 走れメロス 〔文法3〕付属語 	<ul style="list-style-type: none"> 「メロス」や「王」の言動に着目して、人物の考え方や心情の変化を読み取ることができる。 「メロス」の行動や考え方で共感できたところ・できなかったところを、自分の知識や経験と結び付けて考えることができる。 登場人物の人物像や表現のしかたなど、観点を明確にして作品の魅力を文章にまとめることができる。 助詞・助動詞の働きや種類について理解し、文や文章で使われている助詞や助動詞の意味・用法を判別することができる。
	2月	<ul style="list-style-type: none"> 構成や展開を工夫して書こう 言葉3（話し言葉と書き言葉） 漢字3（送り仮名） 	<ul style="list-style-type: none"> これまでに学習した作品の構成や展開を振り返り、どんな点を自分の文章に生かしたいかを考えることができる。 起承転結の流れで構成を考え、場面の展開が明確になるように、それぞれの場面での出来事や心情を整理することができる。 書いた物語を友達と読み合い、よい点や改善点を伝え合うことができる。 話し言葉と書き言葉について、それぞれの特徴を理解し、表現する際にどのような注意が必要かを考えることができる。 送り仮名に注意して、漢字を読んだり書いたりできる。
	3月	<ul style="list-style-type: none"> 木 	<ul style="list-style-type: none"> 「愛」、「正義」などの抽象的な概念を表す言葉に着目し、詩の中での意味を捉えることができる。 自分の知識や経験と結び付けて、作者のものの見方について理解することができる。